

今月のことば

回心

自分が可愛い
ただそれだけのことで
生きていた
それが
深い悲しみとなったとき
ちがった世界が
ひらけて来た

(浅田正作『骨道を行く』より)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章こいけひであき

昔、上の詩を読んで、「私、そんなに可愛くないですから」と言った女子高生がいました。みなさんは、「自分が可愛い」とは、そのような意味ではないことは、すぐに分かると思います。ここでいう「自分が可愛い」とは、「自分が一番大事だ」という自己中心のあり方のことをいっています。

今までの人生を振り返ってみた時、「いつも『自分が』という自己中心の心で生きていた」ということが見えてきたのです。物事を見る時、常に自己中心に見て、自分にとって都合がいいか悪いかを判断し、自分にとって都合のいいものを貪り求め(貪欲)、自分にとって都合の悪いものに怒る(瞋恚)。そのような自己中心の心に振り回され、正しく物事を見ることができない愚かさ(愚痴)によって、多くの人を傷つけて生きていたということに、気づいたのです。いや、仏さまの教えを聞かせてもらう中で、気づかされたのです。

ところが、「自己中心の心に振り回されてはダメだ。自己中心の心を捨てなければ」と思っても、捨てられないのが私たちなのです。だからといって、「人間だからしかたがない」とあきらめるではありません。「それが、深い悲しみとなったとき、ちがった世界がひらけて来た」のです。そのちがった世界とは、どのような世界か、求めていきましょう。 合掌